



認証番号 0000007

# 環境活動レポート

2018年4月20日

株式会社アカサカテック

承認	確認	作成
2018年4月20日	2018年4月20日	2018年4月20日
 社長	 環境管理責任者	 推進室リーダー

## 1. 組織の概要

### 1) 事業所名及び代表者氏名

【会社名】 株式会社アカサカテック  
【代表者名】 代表取締役社長 加瀬 順一

### 2) 所在地

【住所】 神奈川県横浜市金沢区白帆4-2 マリーナプラザ 3f

### 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

【責任者】 総務部 部長 海老原あかね

【担当者】 総務部 部長 海老原あかね

【連絡先】 電話 045-774-3570

FAX 045-774-3571

Emale : akt-info@akasakatec.com

【環境レポート公表 URL】 <http://www.akasakatec.com/akasakatec/eco>

### 4) 事業活動の内容

各種システムソフトウェア、ハードウェアの設計・開発・製造・販売・保守

### 5) 事業の規模

活動規模	単 位	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
売上高	百万円	581	596	666	741
従業員数	人	20	22	24	29
床面積	m <sup>2</sup>	900	900	900	900

\* 当社の環境活動年度は前年 4 月より本年 3 月までをいう。

(例 : 2017 年度とは 2017 年 4 月より 2018 年 3 月まで)

### 6) 業務内容と環境負荷項目

当社の業務内容は、ソフト開発及び情報通信で、環境負荷として、主に考えるものは、二酸化炭素排出量、コピー用紙使用量、廃棄物排出量が該当します。また、2013 年 4 月の社屋移転に伴い以前は入居ビル管理者が管理しているため、使用量の数値的な把握ができず、目標が定められず節水の励行にとどまっていた「水使用量」を新たに該当項目として追加しました。環境目標としてデータを記載していない環境負荷項目と理由は次の通りです。

#### 【化学物質】

・当社は、化学物質の使用はありません。

#### 【原材料】

・当社は、生産活動をしておらず、原材料の使用はありません。

#### 【包装材料】

・当社は、商品の包装紙を使用していますが、包装紙はその他紙類として管理しています。

#### 【水質汚濁物質】

・当社は、生活用水以外の水の使用はなく、生産活動における排水は出ません。

## 2. 対象範囲

### 1) 認証・登録の範囲

1.2)に所在する当社の全ての組織 (図 1.業務組織図参照)

### 2) 認証・登録の活動範囲

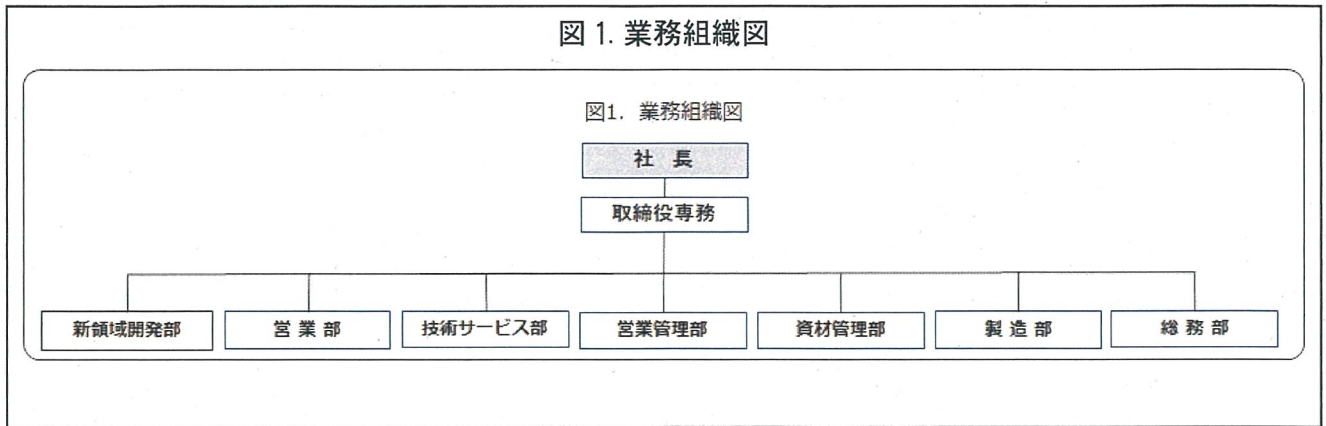
「各種システムソフトウェア、ハードウェアの設計・開発・製造・販売・保守」

### 3) 本環境活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間 : 2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日

発行日 : 2017 年 4 月 17 日

図 1. 業務組織図



### 3. 環境方針

#### 企業理念

「道に食あり 食に道なし」  
技術の研鑽、道を究める

#### 環境方針

株式会社アカサカテックは、事業活動を遂行するにあたり、  
地域性及び環境への関連を考慮し、  
次の環境方針を定め環境保全に対する自主的な取組を展開します。

1. 環境経営システムの構築を確立し、これを運用・維持します。
2. 事業活動による直接及び間接的な環境への影響を的確にとらえ、精査し、環境保全活動の目標を定め、これを実行します。
  - ① 電力及び車両燃料の使用量の削減により、CO<sub>2</sub> 排出抑制に努めます。
  - ② 紙使用量の削減、廃棄物の分別・リサイクルにより、廃棄物排出抑制に努めます。
  - ③ 節水に努めます。
  - ④ グリーン製品の積極的な購入を図ります。
  - ⑤ 環境へのプラス影響を促進するシステム・商品の開発を積極的に進めます。
3. 内部監査を実施し、継続的な改善、及び環境管理の維持向上に努めます。
4. 環境に関する法規制及びその他の同意する要求事項を遵守します。
5. 本「環境方針」を全社内に周知するとともに、社内教育により全社員を啓発し、一社会人としての環境保全意識の向上を図ります。

2015年10月21日 改定  
2001年7月11日 制定  
株式会社アカサカテック  
代表取締役 加瀬 順一

#### 4.環境目標

##### (1) 環境負荷項目の削減目標

当社は、2001年度～2005年度、2006年度～2010年度の各々5年間の活動終了後、各々の5年間の実績の平均値を基準値として次の5年間の目標を策定し活動してきました。計10年間の活動が終了し、負荷項目によっては不満足な結果となる年度もありましたが、ある程度満足のできる実績を残すことができました。その後、2011年度～2012年度新たな基準値を策定し活動してきましたが、2013年4月の社屋移転に伴う環境条件等の変化を考慮し、2013年度の負荷実績を新たな基準値として「二酸化炭素排出量」「総排水量(水使用量)」「コピー用紙使用量」「廃棄物排出量」「新聞再生廃棄量」「ダンボール再生廃棄量」及び「グリーン製品購入率」の新たな低減目標を下記のとおり策定しました。

負荷項目		基準値	目標	目標	目標
		2013年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素 排出量	低減率	—	2.00%	3.00%	4.00%
	kg-CO <sub>2</sub> /年	47,319	46,373	45,900	45,427
総排水量 (水使用 量)	低減率	—	2.00%	3.00%	4.00%
	m <sup>3</sup>	153	149.9	148.4	146.9
紙廃棄物量 (溶解処理)	低減率	—	1.00%	1.50%	2.00%
	kg/年	503.5	498.5	495.9	493.4
廃棄物 排出量	低減率	—	1.00%	1.50%	2.00%
	kg/年	1,129.9	1,118.6	1,113.0	1,107.3
新聞再生 廃棄量	低減率	—	1.00%	1.5%	2.00%
	kg/年	100.7	99.69	99.19	99.69
ダンボール 再生廃棄量	低減率	—	1.00%	1.50%	2.00%
	kg/年	461	456.4	454.1	451.8
グリーン製品 購入率	増減値	—	2.00%	3.00%	4.00%
	%	71.9	73.90	74.90	75.90

\*電力の二酸化炭素排出係数は東京電力の2011年度実績の0.464kg/kWhを適用。

##### (2) 環境にプラスの影響を与える活動目標 (環境配慮型製品の開発・販売)

当社は、2001年度よりEA21のガイドラインに準拠した環境活動を行ってきました。主な活動は「環境負荷項目の削減」であり、これまである程度の実績を残してきています。しかしながら、近年においては削減率の伸びが活動開始時期に比べ緩やかになってきており、また、数年後には限界値に達すると考えられます。このような状況を踏まえ、2007年度よりプラスの環境側面の活動を開始しました。


「環境にプラスの影響を与える活動」として「環境配慮型製品の開発・販売」を開始、2008年度より目標を設定し、推進してまいりました。これは、システム開発及び商品化にあたり、当該商品の持つ機能が、「社会の環境保全活動に対し間接的に、どのくらい貢献をもたらすか」を設計条件の一つとして位置付けて開発及び商品化し、当社の製品として販売するものです。目標と商品(システム)の概要は次の通りです。

製品名 (システム名)	年度	基準値 (2008)	2011	2012	2013	2014	2015
NetBreeze (Honsen.net)	目標値 (通信パケット数: 単位 10 <sup>6</sup> パケット)	増加率	225% 増	300% 増	375% 増	450% 増	525% 増
		142	460,000	570,000	675,000	780,000	890,000

#### 【商品・システムの概要】

本システムは、船陸間（内航貨物船と事務所の間）のインターネット通信を、陸上の携帯端末インフラを利用した高速で安価な通信料金で実現したもので、従来は書類のファックス通信に頼っていた船陸間の通信を、インターネット網（Eメール）通信（パケット通信）に切り替えることにより船側及び事務所側両者のペーパーレスを促進し、紙の使用量の大幅な削減が可能になるシステムです。


#### 内航船向け船舶業務支援ASPサービス



**Honsen.net**  
ここから始まる。  
船陸間のコミュニケーション

船舶のIT化を支援。  
タッチパネルで簡単操作。  
26種類の気象・海象データを用意  
本船の状況をカンタン報告  
インターネット電話  
帳票類もペーパーレス管理

#### 内航船向け高速インターネット通信機



船陸間インターネット通信機  
**NetBreeze**

下り最大通信速度 2.4Mbps  
船内高速インターネット環境を提供  
定額料金でパケットフリー  
船舶用コンテンツサービス  
「Honsen.net」に対応  
タッチパネル式液晶モニター  
自船 GPS 位置送信機能

※ 通信可能領域は目安です。一部地域もしくは電源状況により通信ができない場合があります。また、図は当社調査によるもので、通信を保障するものではありません。

### Honsen.net & NetBreeze

しかしながら、システムは継続的に稼働しているものの、2013年4月における本システムのバージョンアップに伴うシステム変更により定量的な活動結果の収集が不可能となったため、本活動は2013年9月をもって終了し、新たな「環境配慮型製品の開発・販売」を開始することとしました。新システムにつきましては現在開発途上であり、完成次第目標を設定し、次の「環境にプラスの影響を与える活動」として活動を継続する予定です。

<http://www.akasakatec.com/hdt280> 2017年7月リリース

「HDT280」というAndroidOSを搭載した堅牢型・多機能端末をリリースしました。タッチパネルを搭載し、直感的な操作性を実現。4GBの大容量メモリを実装し、SDカードをデュアル搭載、様々な使用方法に対応できます。現場・ビジネスシーンに応じた多種多様なアプリケーションが動作し、ユーザが開発した独自アプリケーションにより、HDT280を専用マシンとしてカスタマイズできます。本商品は、今夏あたりに製品として出来上がり、秋には市場投入を考えている商品です。現在国土交通省で進められているi-Constructionの一端を担う堅牢型IoT端末として建設現場の生産性向上することが出来る商品として販売中です。

## 5. 環境活動計画

### 5.1 環境保全に向けた具体的な取組内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下の通りです。活動計画の詳細は別紙活動計画をご参照ください。

#### (1) 数値目標を達成するための取組

##### ① 二酸化炭素排出量

- ・冷暖房温度管理、夏 28℃、冬 23℃の徹底
- ・無人スペースの照明消灯の推進
- ・昼休み時間の全室消灯の推進
- ・退社時のパソコンモニター電源 Off の習慣付け
- ・コピー機の省エネモードの利用促進
- ・効率のよい運転の促進
- ・アイドリングゼロ、急発進ゼロ、急ブレーキゼロ、経済速度での運転の励行

##### ② 紙廃棄物量（溶解処理）

- ・社内文書裏紙利用の推進
- ・書類の PDF 化、社内電子閲覧の奨励
- ・グループウェア活用によるペーパーレス化

##### ③ 廃棄物排出量

- ・ダンボール、新聞紙の梱包材としての再利用の促進
- ・紙類の分別回収の促進

#### (2) その他の取組

##### ① グリーン購入への取組

- ・コピー用紙の全面再生紙化
- ・エコマーク文房具購入比率の拡大
- ・再生紙利用の段ボール・エコ材使用の梱包材利用促進

##### ② 社内啓発活動の取組

- ・E A 21 推進ワーキンググループの結成
- ・半期ごとの活動報告会とクロスチェックの励行
- ・四半期ごとの報告・勉強会の開催

##### ③ 環境にプラスの影響を与える活動（環境配慮型製品の開発・販売）

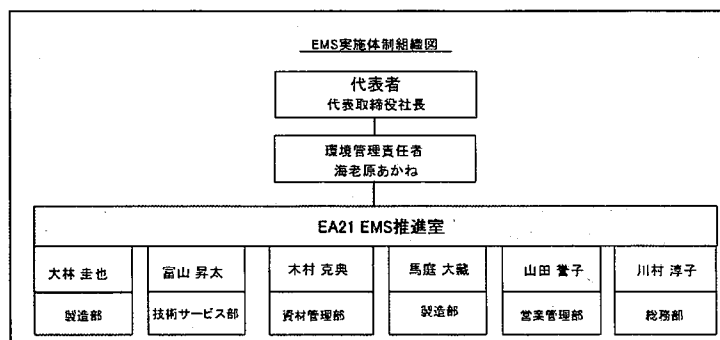
- ・陸上における環境保全活動に間接的に貢献するシステムの開発及び商品販売
- ・「NetBreeze」の販売と利用の促進

### 5.2 環境経営システムの運用体制

#### (1) EA21 推進室スタッフ

氏名	所属	役割
海老原あかね	総務部 リーダー	環境管理責任者・推進室リーダー
神山 淳子	総務部	推進室スタッフ
山田 誉子	営業管理部	推進室スタッフ
馬庭 大蔵	製造部	推進室スタッフ
木村 克典	資材管理部	推進室スタッフ
大林 圭也	製造部	推進室スタッフ
富山 昇太	技術サービス部	推進室スタッフ

#### (2) EA21（EMS）実施体制組織図



## 6. 環境目標の実績

### (1) 環境負荷項目の削減目標値と実績

\*二酸化炭素 排出量の負荷項目別の詳細は 別表1参照

2017年度の実績は下記の通りです。

	2013年度		2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素 排出量総量 (kg-CO <sub>2</sub> / 年)	47,319 (基準値)	目標	2.00%	3.00%	4.00%
		実績	46,373	45,900	45,427
総排水量 (水使用量) (m <sup>3</sup> )	153m <sup>3</sup> (基準値) 2013年度 実績	目標	2.00%	3.00%	4.00%
		実績	149.9	148.4	146.9
紙廃棄物量 (溶解処理) (kg/年)	503.5 (基準値)	目標	1.00%	1.50%	2.00%
		実績	498.5	495.9	493.4
廃棄物 排出量 総量 (kg/年)	1,129.9 (基準値)	目標	1.00%	1.5%	2.00%
		実績	1,118.6	1,113.0	1,107.3
新聞再生 廃棄量 (kg/年)	100.7 (基準値)	目標	39.73%減	39.64%減	231.00%増
		実績	681	682	3,740
ダンボール 再生廃棄量 (kg/年)	461 (基準値)	目標	1.00%	1.50%	2.00%
		実績	99,69	99.19	99.69
グリーン製品 購入率(%)	71.9 (基準値)	目標	28.1%増	11.22%増	923%増
		実績	129	112	110
ダンボール 再生廃棄量 (kg/年)	461 (基準値)	目標	1.00%	1.50%	2.00%
		実績	456.4	454.1	451.8
グリーン製品 購入率(%)	71.9 (基準値)	目標	41.21%減	25.60%減	31.24%増
		実績	271	343	605
グリーン製品 購入率(%)	71.9 (基準値)	目標	2ポイント増	3ポイント増	4ポイント増
		実績	73.9	74.9	75.90
グリーン製品 購入率(%)	71.9 (基準値)	目標	5.7ポイント減	13.6ポイント増	8.8ポイント 増
		実績	66.25%	81.69%	80.07

【別表1. 二酸化炭素排出量の負荷項目別の詳細】

負荷項目	2013年度		2015年度	2016年度	2017年度
使用電力 kg-CO <sub>2</sub> /年	37,443 (基準値)	増減	37.22%減	20.35%減	18.60%減
		Kg-CO <sub>2</sub>	23,505	29,825	30,478
ガソリン kg-CO <sub>2</sub> /年	9,876 (基準値)	増減	16.38%増	41.81%増	19.02増
		Kg-CO <sub>2</sub>	11,494	14,005	7,998
合計	47,319 (基準値)	増減	26.03%減	7.37%減	18.69%減
		Kg-CO <sub>2</sub>	34,999	43,830	38,476

\*電力の二酸化炭素排出係数は東京電力の2011年度実績の0.464kg/kWhを適用。

## 7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組み内容

### 7.1 環境負荷に対する保全活動

2013年度の新基準値に対する2017年度の保全活動の取組み実績結果のまとめは下記のとおりです。

#### (1) 二酸化炭素排出量 **18.69%減**

電力に関しては、2013年の基準値に対して**18.60%削減**となりました。

これは、H26.11月ビルの改装工事の中で照明をLED照明に変更した事と、空調を省エネタイプに変更した事が大きく貢献しています。

【コメント】：目標78,275kWhに対して、64,279kWhで82.1%まで使用済み。

省エネ機器が上手く作動している模様。 担当：川村

ガソリンは、基準値に対し**19.02%増**になりましたが、これは売上増加に伴い車の利用が増加した事に起因しますが、平均燃費はそれぞれの車種で以下の通りです。

カローラー 使用燃料量 (L) 434.36L 走行距離 (km) 9911.00km 燃費(km/L) 22.82km/L

ハイエース 使用燃料量 (L) 723.61L 走行距離 (km) 8470.00km 燃費(km/L)11.71km/L

担当：富山

今後も昼時間の消灯、18時以降の電気の消灯等を継続してまいります。

#### (2) 総排水量（水使用量） **21.57%増**

水の使用量については、計測を始めたばかりなので、「節水を心がける」以外に今のところ活動内容はありますが、これからも心がけていきます。

#### (3) コピー用紙使用量 **2.68%減**

コピー用紙に関しては**2.68%減**でした。

【コメント】：DocuWorks利用による書類の枚数削減については、FAXをプリントアウトせず破棄した数は1,365枚。

29期下期は1,101枚、通期では2,260枚でしたので組織替え等により少し破棄の数が変わってきているのかもしれませんが。(28期と27期はほぼ同量で通期で2,100枚でした)

担当：誉子

今後も営業ツールとしてホームページの活用やCDの利用、グループウェアの運用により現状を維持するよう心がけてまいります。

#### (4) 廃棄物排出量 **39.64%減**

廃棄物排出量は、通常業務で廃棄される物に限定されてきましたので**39.64%削減**できました。現在も、毎月のクリーン大作戦を行なって社内の整理整頓に努めていますが、今後も継続して行きたいと思っています。

#### (5) 新聞紙・ダンボール再生廃棄 新聞 **9.23%増** ダンボール **31.24%増**

新聞紙は、2013年基準値に対して新聞紙に関しては**9.23%**の増加となりました。

積極的に梱包材としても再利用しているので今後も継続していきます。

段ボールは**31.24%増**の増加となりました。

【コメント】：商品の発送も増加していますが、新品出荷では新しいダンボールを使用している為、中古ダンボールは廃棄にまわす率が高くなっています。

特に支障のない発送にはダンボールの再利用と、分別廃棄にご協力お願い致します。なお廃棄ダンボールは回収され資源ごみとして利用されております。



(6) グリーン購入への取組 **8.8 ポイント増**

2013 年度基準値に対して **8.8 ポイント増加**しました。

【コメント】：目標 74.9%に対して 80.7%とほぼ目標値です。

印鑑やテプラ・マジック・フォルダー系がエコ商品で無い為  
但し、エコ商品は価格も高かったり、品質が悪かったりしたため、  
通常商品に戻したこともあり一概にエコ商品を推奨できない。

担当：海老原

エコ商品の購入に向け、総務部購入担当が日々努力しておりますが、エコ商品だと品質に問題がある場合があり通常商品に切り替えて購入しているものもあります。

その為、今年度は目標を下回ってしまいました。

今後も目標値を維持できるように、購入先の見直しを含めて推進してまいります。

7.2 環境にプラスの影響を与える活動

(1) 船陸間インターネット通信システム「NetBreeze/本船ドットネット」の販売

前述のとおり、2013 年 4 月における本システムのバージョンアップに伴うシステム変更により定量的なデータの収集が不可能となったため、本活動は 2013 年 9 月をもって終了しました。しかしながら、本システムは現在も約 200 隻（2017 年 3 月現在）の内航船で採用され、稼働中です。ファックス通信ではなく、Eメールに添付することによるコピー用紙の使用量削減に伴う CO<sub>2</sub> の排出抑制効果として、今後も CO<sub>2</sub> 環境への貢献度を高く維持していくものと信じています。

【コメント】：傾斜管理システム ClinoAlarm

ベント（仮設橋）や橋脚の傾斜をリアルタイムに監視し倒壊等による重大事故の可能性を事前に検知し事故を防ぐためのシステム。

パトライトによる現場周辺への危険アナウンスのほか、離れている人にもメール機能によって通知が届きます。

近年、ベント支柱の傾きによる橋桁落下事故など橋梁現場での重大事故が数件発生し、危機管理の重要性が問われていました。

従来のレベル計やトータルステーションの計測では人力で日に数回計測すると担当者への作業負担があり、また高所作業になるため天候悪化時の安全面の不安などがありました。

本システムにおいては上記懸念事項を解消するために、無人化、省コスト+省スペース、リアルタイム 24 時間計測を実現することができました。

担当：馬庭

(2) 地域環境活動への積極的参加

毎月第 3 金曜日の朝 9 時から 15 分間、地域の清掃活動に参画しています。

毎月 17 人以上の参加を呼びかけ、平均 16 名の参加実績を持っています。

【コメント】：総人数 28 人 目標参加人数 17 人 目標参加率 60%

担当：大林

8. 環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への順守状況は、年度上期および下期はじめにチェックリストで確認し、結果は次の通りです。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。

外部からの苦情も過去 1 年間ありません。

内 容	上期結果	下期結果
法律違反の有無	無	無
訴訟の有無	無	無

\* 詳細は、環境関連法規等のチェック表による。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今迄順調だったガソリンは、今期は目標を約 22%オーバーしてしまいました。売上高が全年同期比売上 666 百万に対し今期は 741 百万で約 11%UP しましたので、売上増強に伴う増加と考えています。電力は、目標のおおむね 9 割強の使用料になりました。照明が LED となりエアコンも省エネタイプに代わっているため、今後ますます節減に期待できます。前回の外部審査で、紙の廃棄量計測の基準を変更した事もあり計画的な廃棄量となった為、上質紙（コピー）の使用量削減は予定通りでした。新聞紙については、目標 99.18Kg に対して 110.4Kg で 11%増加になりましたが、これは新たに 1 誌、無償提供された新聞が増えたためですが、再利用産廃業者に廃棄委託をしているので再利用化は実施されています。同様にダンボールの廃棄量も 33%UP してしまいましたが、再利用には貢献しています。その他、廃棄物排出量や、水使用量は、目標値内で収まりましたが、グリーン購入率は逆に 74.9%の目標に対して 80.%と約 0.5%UP させる事が出来ました。

環境へ対応できる製品を開発では、傾斜管理システム ClinoAlarm があげられます。

本件は、ベント（仮設橋）や橋脚の傾斜をリアルタイムに監視し倒壊等による重大事故の可能性を事前に検知し事故を防ぐためのシステムです。パトライトによる現場周辺への危険アナウンスの他、離れている人にもメール機能によって通知が届きます。近年、ベント支柱の傾きによる橋桁落下事故など橋梁現場での重大事故が数件発生し、危機管理の重要性が問われていました。

従来のレベル計やトータルステーションの計測では人力で日に数回計測すると担当者への作業負担があり、また高所作業になるため天候悪化時の安全面の不安などがありました。本システムにおいては上記懸念事項を解消するために、無人化、省コスト+省スペース、リアルタイム 24 時間計測を実現することができました。

地域環境活動の清掃活動は、社員全員で参加する事が浸透してきています。

以上